

三、交渉決裂以来、即ち四解業期間中、手立を以て、
七、職工側、要求ハ産業自治、大精神ニ基キ、
思上相替及、元々下夥シラ、仍テ之項ハ、
榊毅ス

四、樽工側ハ産業自治ノ精神ニ基キ、生産工組合ヲ設置
セントシ、其第一歩トシテ臨時性世系場ヲ設ケ、製樽事業ヲ
起シ、購入シ、免知製樽用原料品ハ業主側ニ於テ買戻
シ、調査委員若キテ、免知選考シ、調査委員ノ手ニ原料
購入額ヲ調査シ、上實際價格ニ買戻ス

五、大正十二年三月五日業主側ヨリ樽工側ニ通告シ、免知
十、四年三月八日協定ノ職工待遇改善ニ関スル協定書ノ
取消ハ之ヲ撤回シ、免知上争議調停者カニ三項目ヲ加ヘ

復返セシムルコト

六、業主側ニ於テ食費ヲ爲ス職工ノ食費ヲ物價底
サ、免知之從業一食分ニ十二支ト協定サシ居タル
ニ是ヲ一割優下ニテ改ムルコト

七、樽工統制側ノ待遇改善要求ハ本争議ト別々因ノ
問題トシテ本協定ノ條件ト別離シテ調停者ノ手ニ付
重定由儀ヲ重スルコト

以上仲裁判定書ハ大正十三年三月 日ヲ以テ效力ノ發ス
期トシ、向テ一年間即チ大正十三年三月 日迄ヲ效力期
間トス